

学生移動 (Student Mobility) のビジョンと最新の傾向

Assoc. Prof. Dr. Sauwakon Ratanawijitrasin

東南アジア教育大臣機構・高等教育開発センター (SEAMEO-RIHED) センター長

要 旨

過去二十年間で、国際的な学生移動は急速に拡大してきた。世界で見ると、留学生の数は1990年には130万人であったのに対し、2011年には430万人となり、三倍以上に達している。世界の留学生の半数以上はアジア人である。そのうち、34%は北東アジア諸国、8%は東南アジア諸国の出身である。東南アジアでは、海外留学生の多くが OECD (経済協力開発機構) 加盟国に留学するものの、地域内での留学も近年盛り上がりを見せている。

このような傾向は、様々な力の働きによるものである。中でも重要なのは、グローバル化や地域化といった課題に対応する必要性であり、それが国際化に向けた取り組みへとつながってきた。北東アジアと東南アジアを含む東アジアでは、高等教育の国際化に向けた様々なスキームの中でも特に重要な政策措置として、学生移動を推進するための国策や機関レベルでの取り組みを積極的に行ってきた。学生もまた、知識、スキル、経験を養うため、海外で高等教育を受けることを求めている。

このような変化の流れの中で、東アジアの政府や高等教育機関は、より幅広く、強力な協力体制を築くべく、二国間協力や多国間協力といった形で互いに手を携えてきた。また、国際機関は共同行動を起こし、推進していくのに貢献している。

東南アジア教育大臣機構・高等教育開発センター (SEAMEO-RIHED) は、多国間学生交流プログラムである AIMS (ASEAN 学生交流プログラム) を立ち上げ、推進する役割を担ってきた。2010年に3か国の加盟のもと始まったこのプログラムは、現在ではマレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本の7か国にまで拡大し、留学の機会を東南アジアと北東アジアの両方において提供している。

地域内での協調を推進するとともに、学生移動をより容易にする仕組みを確立すべく、SEAMEO-RIHED は質保証と単位互換制度に関する取り組みを指揮し、積極的に関与してきた。最近の取り組みでは、アジア開発銀行の支援のもと、共通の単位互換制度の研究・開発に向けた政策措置の研究を行っており、これが学生移動を支援する ACTFA (Academic Credit Transfer Framework for Asia/アジア単位互換制度) へとつながった。

世界と同様、アジアでも枠組みを超えた競争力を持つ人材が求められている。未来の課題に対応できるグローバル人材を育成していくのは、高等教育機関の役割である。学生移動をより推進するため、更に大規模な共同行動が求められている。これには①学生交流のための多国間プラットフォームを確立し、強化すること②将来のニーズを満たすべく、授業から学生間での学び、職場や地域社会での学びまで配慮した、多様な形態のプログラムを開発すること③多様性を保ちつつ、互換性・同等性をより確保するため、高等教育を協調させること④既存の機関あるいはプログラムから新規のものまで、高等教育の質を改善すること、などが含まれる。